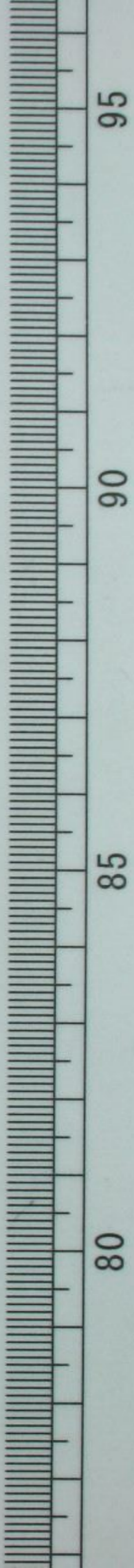




應作
 清所
 卷之
 七
 記

~~D~~
~~1013~~
~~1~~

逍遙文庫
 文庫 6
 982
 1



奉
御所
東
日記



中橋
山田屋
壽時

文庫6
982
1

飯嶋
所藏

重宝記

胎衣を納むる男の墨筆女の糸針をいれて其年の天徳星
月徳星の吉方ぬむるに深く埋め三声笑つてゆふ言法を
尤人のふぬぬ埋めそのうへをよく密にたてとるれば

胎衣



そのま長命を納むるこれを鳥獣が
掘りて食へるを悪死をさる
虫が食ひ火中み捨れば悪瘡疥病
されば社廟汚水井戸電街ちくくみ
うづむらうらばの一人のさふ極くさるればその
主育とば又そのれ家業小用ゆるのれど是れおの
このせまふたえん 天子の御後衣の裾着山加茂
よりいふ

御所奉公東日記初編序

夫天下の大戒二有其一命也其義也子の親を愛
臣の君ふ事の義也左あり右あり下後二代三代の時政成
思へ其治亂草の葉の戦々と表裏するが如し然と君を
犯者 林三代の君及び畠山父子 一族局松島女
る是等の物語りいと長れば編と
孝の手本ともなる先此初めの時政夫婦の奸悪重成の
密謀不道放逸を

嘉永七甲寅
初春新鐫

万亭應心賀識



鎌倉三将右大臣實朝卿

此君頼朝卿の
頼家卿の御舎家
あて明君小
ほしく云



實朝卿御臺所

此姫坊門前大納言信清卿の
御娘めい京都より元久元甲子年
十二月十日小鎌倉へ下着あり
實朝卿御臺所落飾あり



御歌の
道中
公曉の
若月
公曉

禪師
小秋
干時
御年
二十八歳

北條時政殿後方

此奥時政の後重なりて
邪智奸
悪ゆて



格毛重成と通し忠臣の

尼御臺老女阿波局

此本誠忠の意ありて
實朝卿毎々御危難を
免れし此者の働まへ云



後前諸臣の
誅戮を助け御所
は女中の難を救ひ
頼家卿の御舎家
其心勞
帝の女の及ぶ
所あり

孫の養時の忠義あり
其企
自ら
死す

北條遠江守平時政

此臣鎌倉草創の
武士あり尤邪

政子頼朝
郷御基



悪逆
露頭
及バ
諸臣の
刃小
刺さる

稲毛三郎重成

此臣畠山重忠の従弟あり
忠臣の必もよるを邪悪奸佞ありて諸臣は忠義を
諷し重忠の二様とんがたり無慙の死を遂ぐ終ふ

尼御基政子御前

此御方の時政の娘也聰明あり聊
嫉妬の愚念あり二代君の君あり
簾中にて政子を聞えたり尼將軍
といふ法名を如實と号し上洛して

從三位と号り又三位のり
六十九歳あり
嘉祿元年
七月逝去

頼家郷遺紀念姫君

此姫の頼家郷君に
女中密に



御身弱小あり公ありて
御出生あれど
四代の君の御基とありて竹御
御身弱小あり公ありて
御出生あれど
四代の君の御基とありて竹御

御新十五
頼家郷
四代
君の
頼家郷

善哉君 京公卿の御子なり
 此君の頼家卿の御子なり
 御子なり
 加茂の御腹
 六郎

重長の御子なり四歳のとき父を亡くされ母を再嫁す
 公卿の御子なり今も公卿の御子なり
 別當殿とありぬ建保五年正月五日
 父の仇を報復す
 長尾新六郎
 御年十九歳

鎌倉三河羽林重頼家卿の御子なり
 此君の頼朝卿の御嫡男御母公卿の御子なり
 平の政子蹴鞠を好む伊豆の奥野の御子なり
 武將たるゆゑ伊豆の修善寺に御移され詭者は御年二十三歳あり



局松島侍女賤機

此女の浴外矢頼の生れゆゑ松島の親の恵をうけ契約は夫を見も局あつた鎌倉下り松島自害の後まで忠義を尽せり

京上臈松島局

佐渡守 潮卷の娘
 實朝卿の御臺下り
 和田三男義秀を愛す
 奸げられ貞操を
 御臺所書置の末小詠る

君の義秀の書置の末小詠る

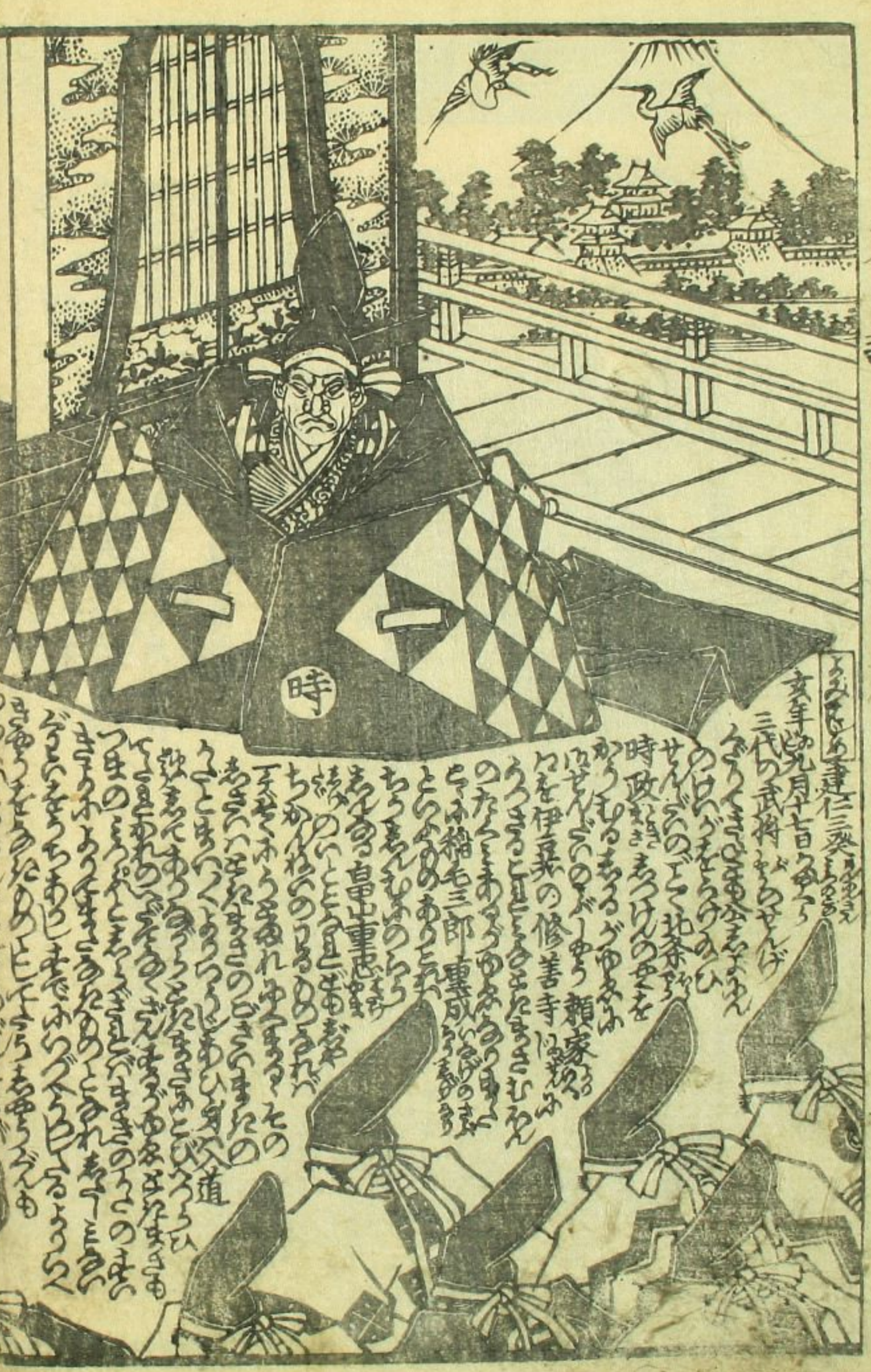




實朝卿

これにうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい

あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい



時

三手御九月十日...
三代の武將...

あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい
あまをうかひのあやむい

ついでひらりあてて下ぎののりかひ
 なるせうのつあひくこのまよかを
 かくるへ二品物せんあつせんせいのま
 あぢあぢをかくるをうごうごう
 むんのあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち



ひらりあてて下ぎののりかひ
 なるせうのつあひくこのまよかを
 かくるへ二品物せんあつせんせいのま
 あぢあぢをかくるをうごうごう
 むんのあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち



ひらりあてて下ぎののりかひ
 なるせうのつあひくこのまよかを
 かくるへ二品物せんあつせんせいのま
 あぢあぢをかくるをうごうごう
 むんのあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち

ついでひらりあてて下ぎののりかひ
 なるせうのつあひくこのまよかを
 かくるへ二品物せんあつせんせいのま
 あぢあぢをかくるをうごうごう
 むんのあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち

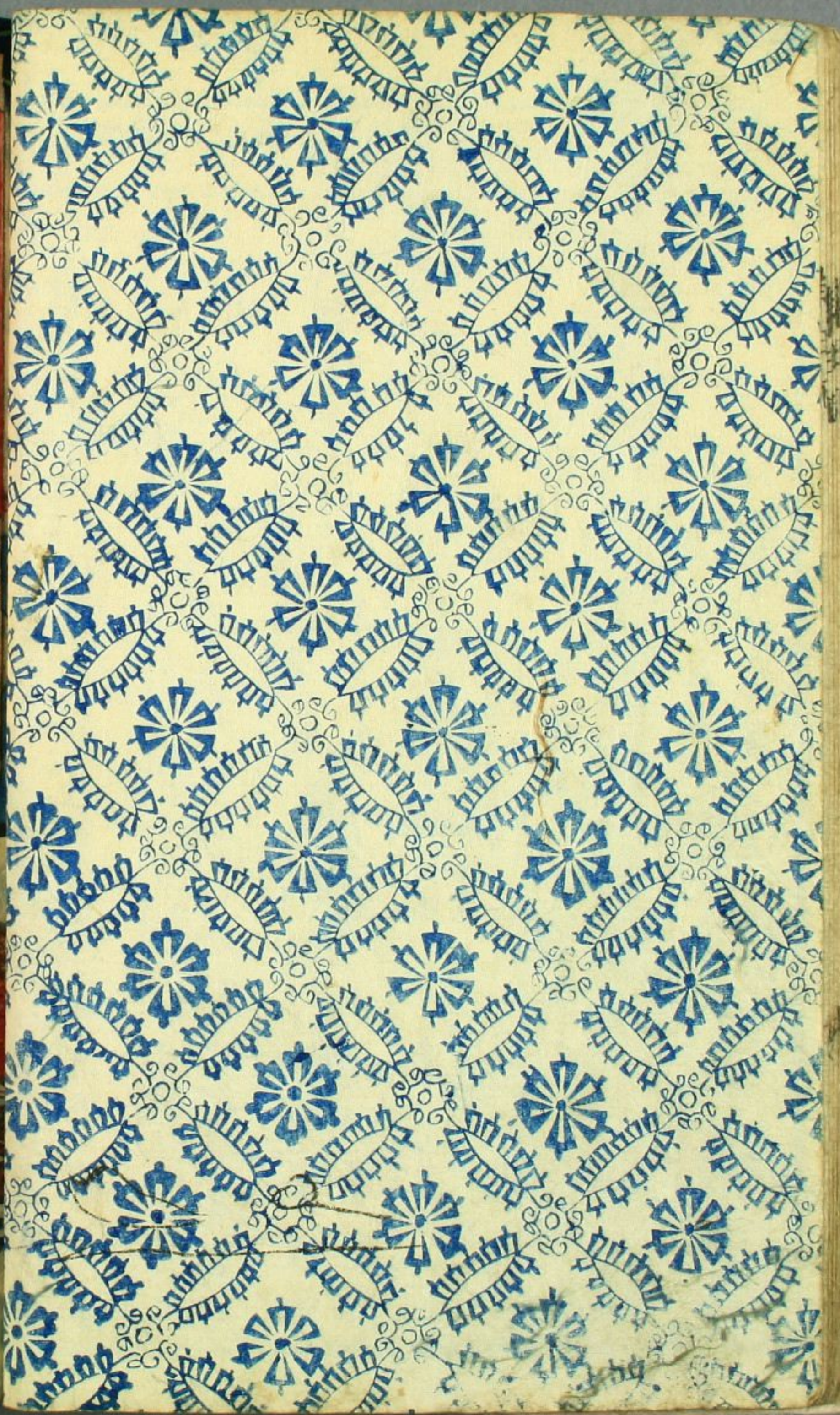


ひらりあてて下ぎののりかひ
 なるせうのつあひくこのまよかを
 かくるへ二品物せんあつせんせいのま
 あぢあぢをかくるをうごうごう
 むんのあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち
 むろろはまのそれ他東をま
 りはるかあつうらあつうらあんち

一猛齋芳虎画



万亭應賀作



重宝記

胸帯をつぎまゐらるる生れ子の父竹の刀をのりてつぎまゐりて
其跡をたゞし者つゞべ一竹の刀ゆてつぎ事神代よりの上
縁帯の爛れて早く落るもの悪し五六日ほど乾かて
落る強よとまると下らて剃髪と共小
包とてよく藏りおくべしたれ虫
つぎがその主の死の表あらうり長旅
或ひの行方知れざるもの安否ををるんと
まるとたれその主の縁帯強よりゆて
見よべし一巻お愛らげれば毎事さう
綱れ又とてまれば其の人

臍帯

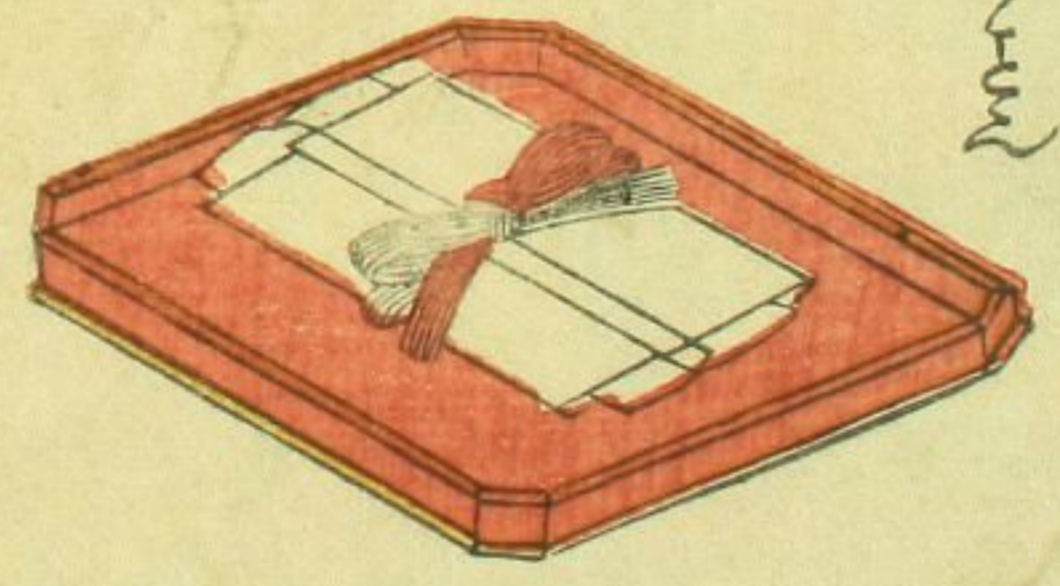


Illustration of a woman in a kimono kneeling and holding a child, with another child lying on the ground. A tall, thin lantern stands to the left. The scene is surrounded by dense vertical Japanese text in kuzushiji script.



ての女のあひのつれあひかきまはれて
りしむかしのつれあひかきまはれて
あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま

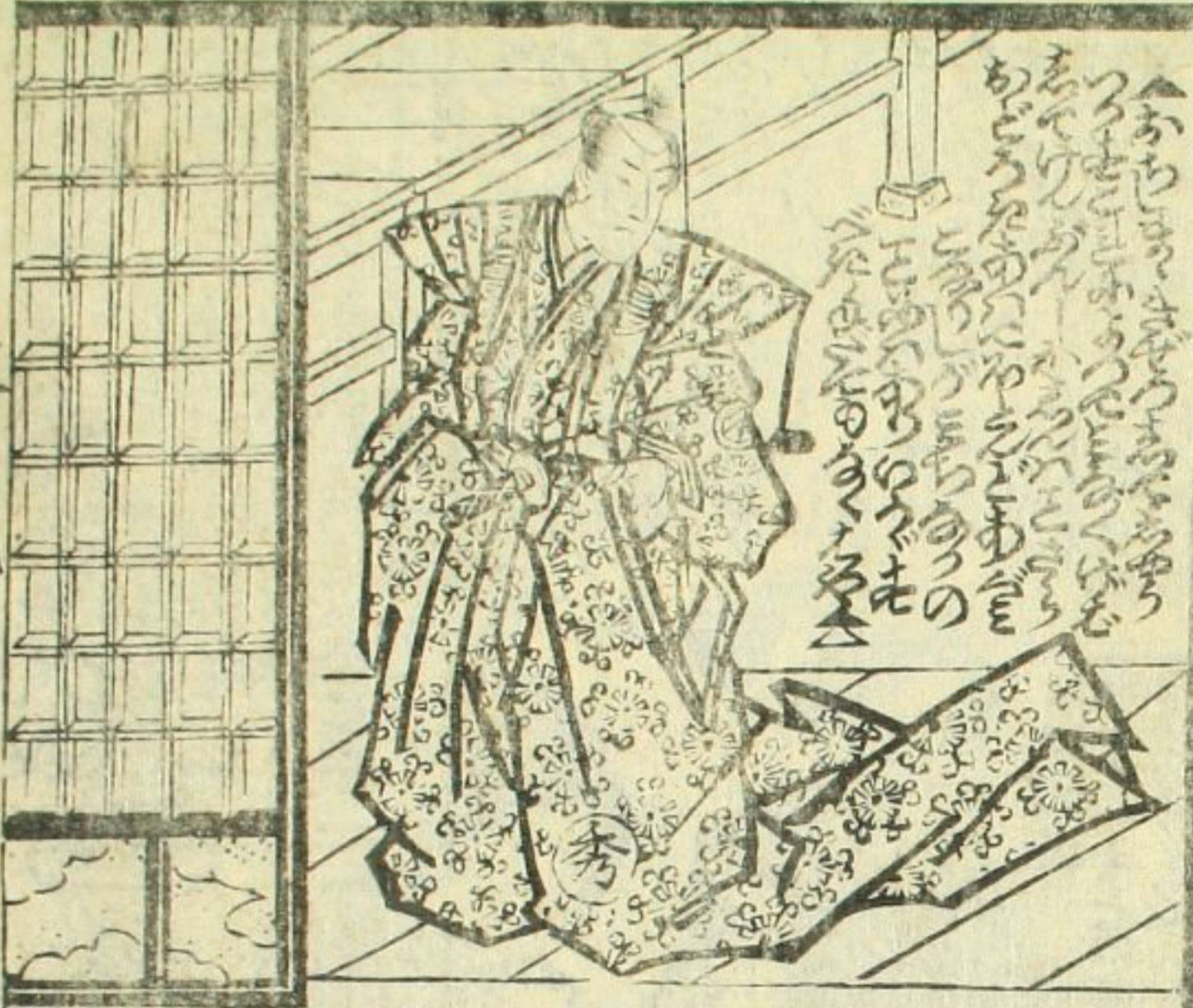


あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま

あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま

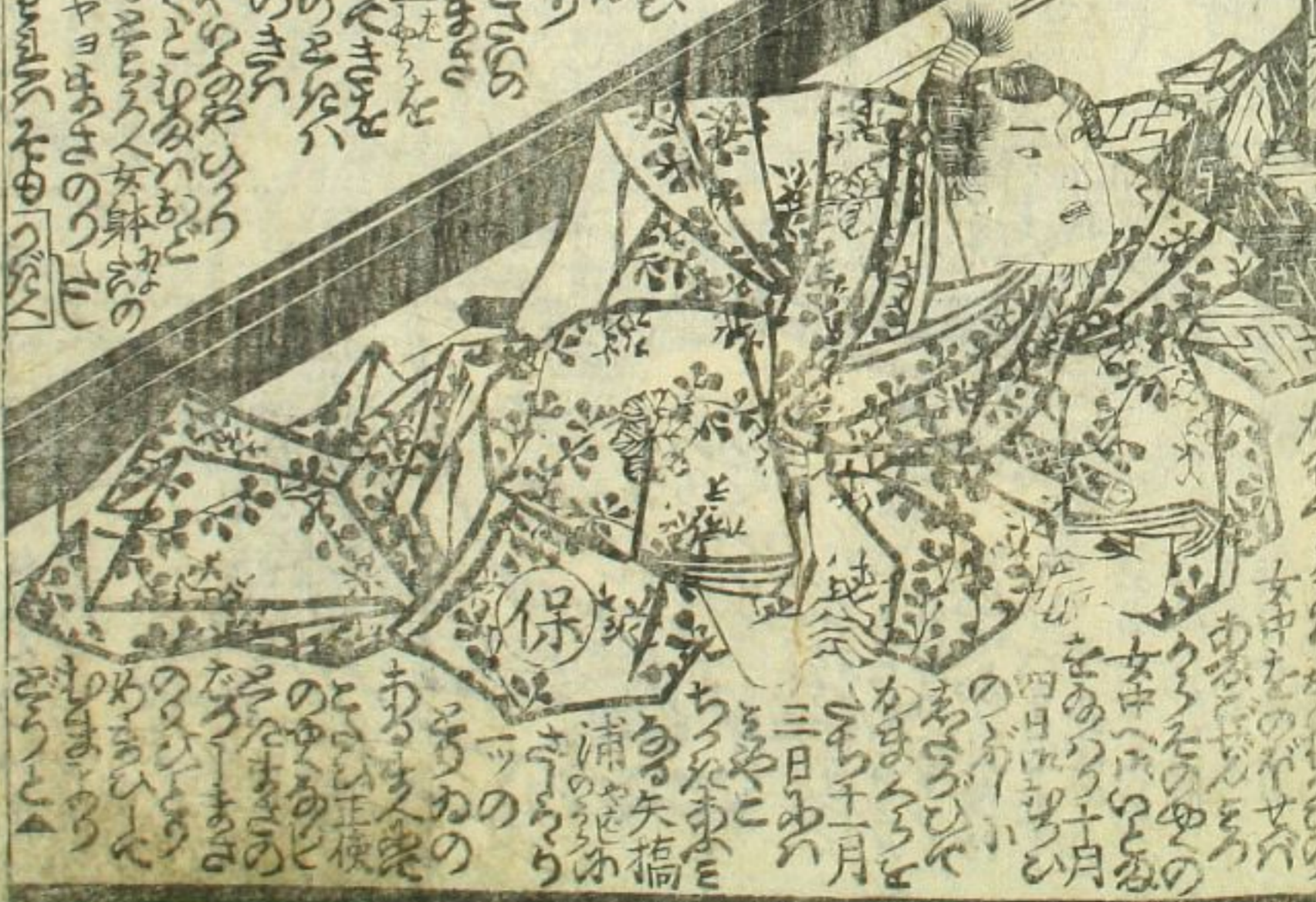


あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま
あつむのつれあひのつれあひかきま



あつちいさうきやうきやうきやう
つらきやうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう

あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう



あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう



あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう
あつちいさうきやうきやうきやう



東日也



東日也



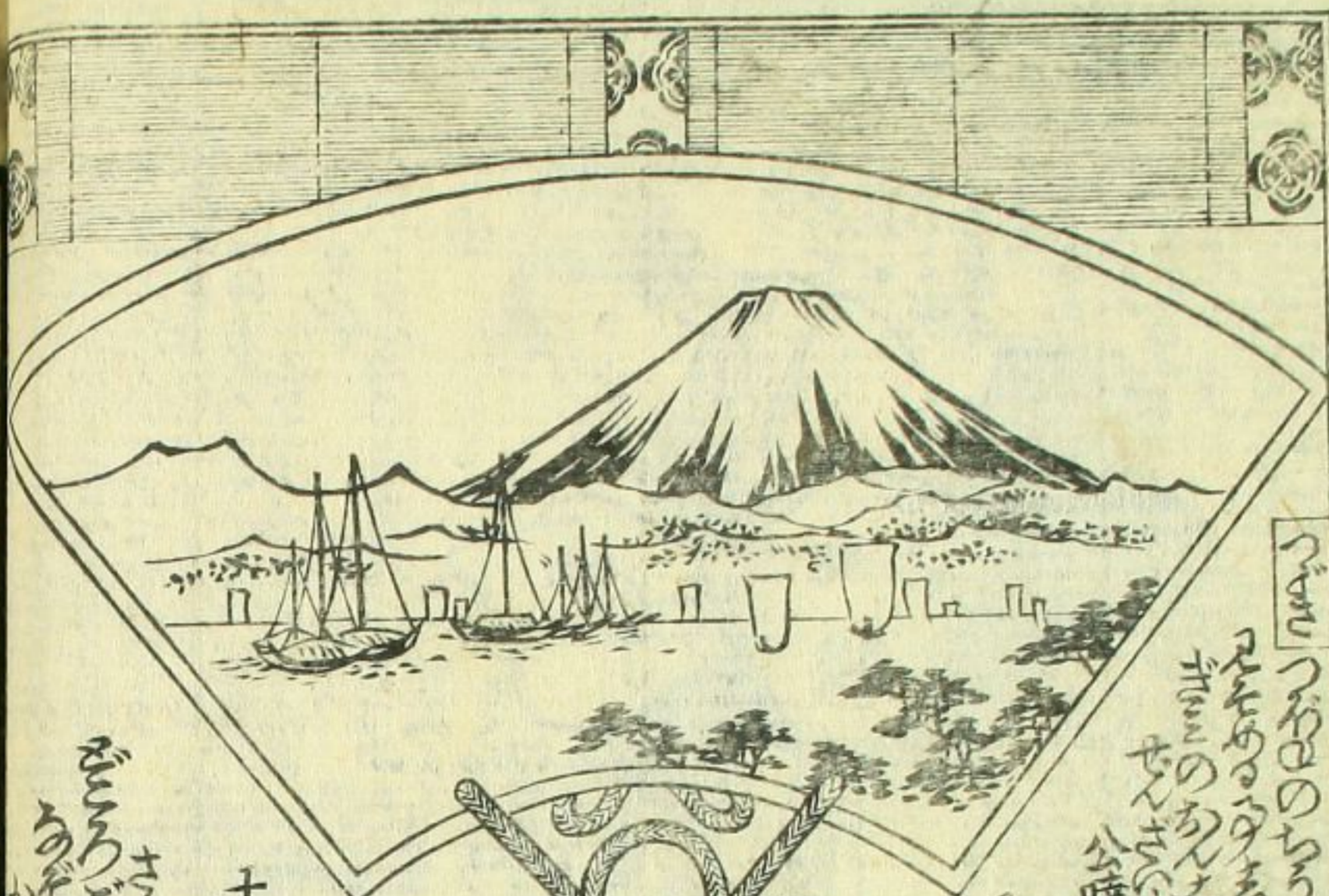
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの

甲寅春錦橋堂新板

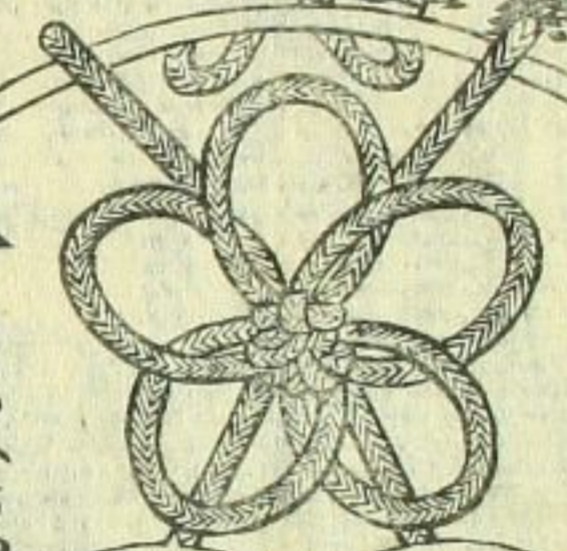
口中 御藥 **固齒散** 大包代百銅 小包代世額
 功一に毒を 一うたえ 一うに血
 能一血の 一を治す
 能一用ひ各のうをくおま

精製 **白妙** 一包代 世二銅
 清淨 白妙 一包代
 精製 白妙 一包代

寐小使の大奇薬
 小使男女子の一色とて治る良方



山景のちりちり
 舟のちりちり
 家々のちりちり
 田舎のちりちり
 山景のちりちり



万亭應賀作
 一猛齋芳虎画

▲ありはくまの
 ひらきまの
 十四大の
 ござうばん
 十三の
 ござうばん

▲ありはくまの
 二代の
 またの
 なる
 ちゅう
 さら

塵塚物語 三編 山東菴京山作 揃一陽齋豊國画

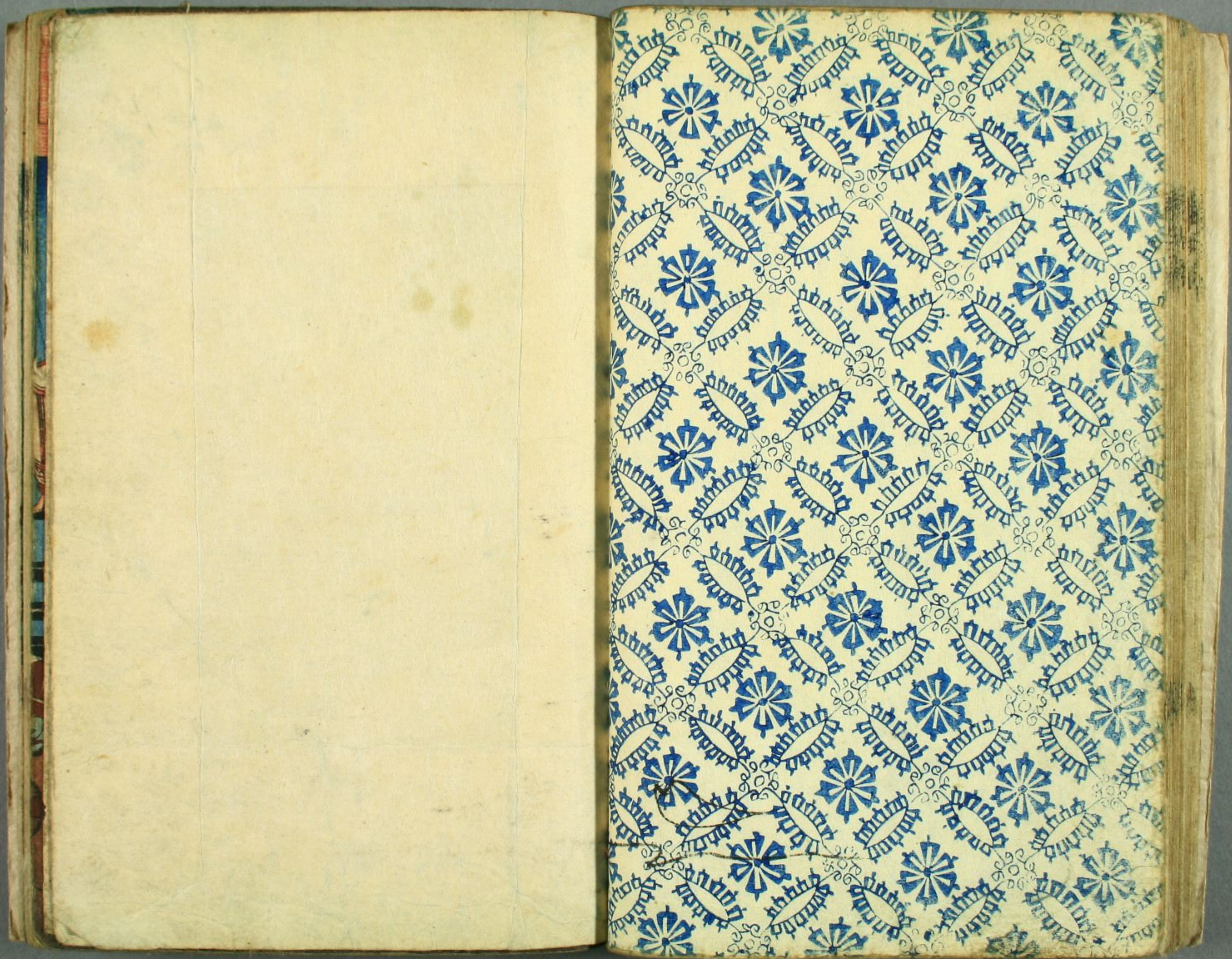
葛葉丸重錦 五編 万亭應賀作 揃一陽齋豊國画

英雄五大力 五編 万亭應賀作 揃一猛齋芳虎画

雛鳥雀湯壽 紅摺 大本 山東菴京山作 一冊 一陽齋豊國画

苗圃茶箱 中本形 山東菴 全冊 京山作

庄 地本 江戸中橋廣小路 錦繪問屋 山田屋庄兵衛



新洲東日誌

二

十月
十日



万亭應賀作

中橋山庄版

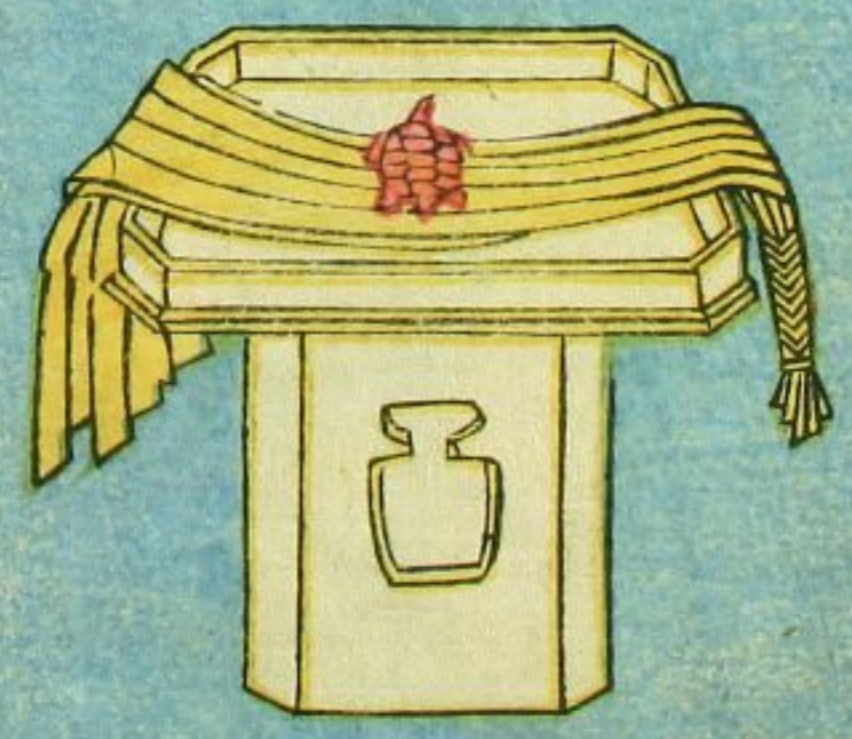
中橋山庄版

飯嶋新蔵

重宝記

元服の祓の多 髪お死袴着帯と死
 考のほのけ祝ひ更も今時の都へ
 十一月十五日ふ限りたるやうふあり元を
 昔いこの日ふ限るべううは尤年中の
 うち吉日を撰べとあふうと障りのある
 めのあり因てくふ陰陽師の書より云
 ぬまが此日をり門へ年中祝ひ事ふ
 ほうふべう大吉日あり

正月十日 二月九日 三月七日 四月五日 五月三日 六月朔日
 七月廿五日 八月廿日 九月廿日 十月十日 十一月十五日 十二月十一日



御所奉公東日記二編叙

大親子兄弟とのそも其性の違あると近き先史清盛重盛の父子あり其
 行粧の善と悪との諸書不出能人の知所叔鎌倉の時政の二位の禪尼
 時政夫婦息義時あり其行不正ありあると泰時時頼の聖賢ありて
 政道をよく正業又重忠重保の父子及び義盛義秀の父子ありて其
 性更い勇を君を重んト下を哀れども重忠は後弟あり重成は仇せられ
 義盛も後父兄弟あり義村の不義不かり此両家の一族等が一時小滅
 亡ありると天命とい言あうう誠忠無二の士を豈天道の助ざる神
 佛さどう守らざる是の所謂佛家小釋過去の業とゆふべたり左も
 あは善の善ありて悪の悪ありて未代まで其名の朽ぬを思ふべういぞ拙きた
 此史の童女達小見せしめて聊善と勸りのふことと

嘉永五壬子夏稿成
 同 七甲寅初春発市

万亭應賀誌



後京極攝政藤原良經卿北政所

頼朝卿の姉君權中納言藤原の

能保卿の簾中にて此君を産めい

浪經卿嫁さるる鎌倉三代

實朝卿と後弟の御續あり

御臺所小附ありて鎌倉

尼御臺中老環局

此女中阿波の局の

次つた大奥の

支配をつとめ

尤忠義の

者なれども

牧の方の

談言ふふく無実の



御前を止めらる

畠山六郎重保

重忠の

嫡子小

まを父小

劣ぬ

大剛の者あり

實朝卿の

御臺所御迎ふ登りて京の守護人

相摸次郎朝時

北条義時の次男泰時の身尤好色ありて

御臺所の土崩松島と徳慕一義秀と

こころ後小名越式部丞といふ



六月廿一日
時元久三年
戦死せりとの
あ由井濱小
牧の方重成の諺
本詳論のこころ

朝比奈三郎義秀

和田左衛門尉平義盛の三男と母の巴女

勇剛 忠孝及 五常を 重頼 負美 男一

時政郎等千賀九郎

牧の方の腹心であるの悪を働き元久二年閏七月十九日北条名越の馬場風歌道の御遊あり此時實朝卿を討奉りて結城七郎朝光を生捕り

和田左衛門尉義盛妻巴女

此婦人天下の才曾殿の妾ありて義盛生捕りて軍功の賞ふ

武勇美の 妻とせりて

義秀の 母あり

浅利與市源

義遠妻坂額女 越後國の住人城九郎



武勇 大カ 烏坂 合戦 慶大軍 討つ 与市 捕生 妻と 終る

居松島を去り戀慕したまふ嫁は死 河原に尼君お妨げられてゐる建保 元年和田合戦の事怪方大敵を 討ち

資國の娘あり

一門 後 房州 渡り 又外國 小行 云と

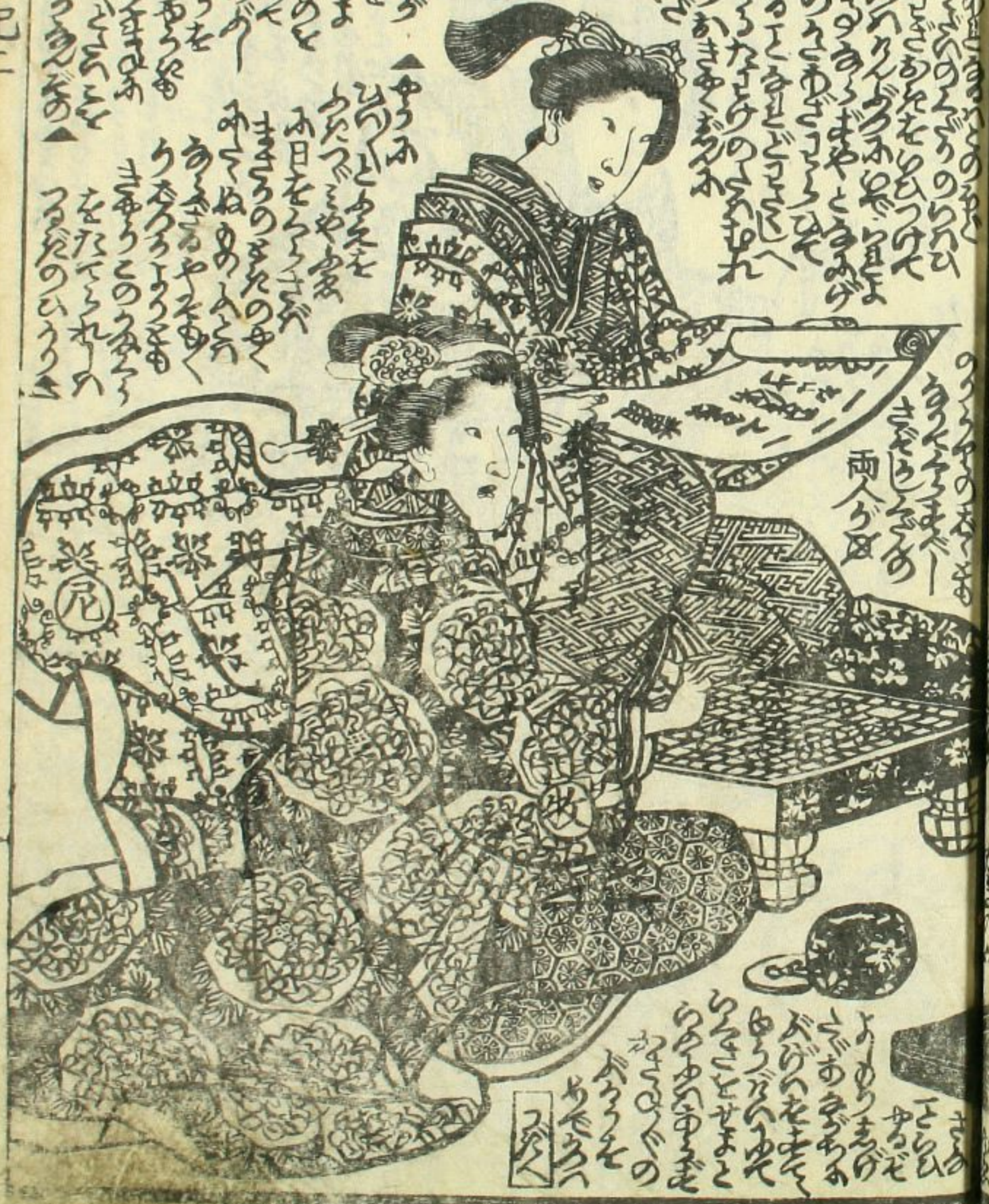
しるし... 山... 水... 東田三十一

その... 東田三十一

東田三十一

山... 水... 東田三十一

東田三十一



つたに...
 りつたに...
 のちのち...
 まづ...
 ...



あつたに...
 ...
 ...

あつたに...
 ...
 ...



あつたに...
 ...
 ...

此の歌仙の歌は...
歌仙の歌は...
歌仙の歌は...



此の歌仙の歌は...
歌仙の歌は...
歌仙の歌は...

此の歌仙の歌は...
歌仙の歌は...
歌仙の歌は...



此の歌仙の歌は...
歌仙の歌は...
歌仙の歌は...

甲寅初春錦橋新板目錄

教
 竹女房形氣 十三編 系山作
 西編 五編 岡貞画
 女房形氣 西編 五編 岡貞画
 城忠摺 結鹿子針度小説 初編 一編 梅芳画
 七州白揚 結鹿子針度小説 初編 一編 梅芳画
 造榮櫻叢紙 八編 梅芳画
 十編 梅芳画
 浮林島龍漣 五編 花咲画
 大尾 豊岡画
 後所 日記 初編 二編 三編 四編 五編 一編 萬應 齊芳 虎画
 鎌倉元將軍を始りて小室時政を結末とし、猶毛重成の好意、中山父子の誠忠、亡一系
 中納言の爲朝、美奈美秀を深く慕ふ、既小妻とす、人の厄、基政子の方、娘、つれづれ
 方、女阿波高枝の方と、毎々争ひ、三代の君、史、朝、石、清、軍、公、殊、の、勢
 遠く、合、戦、の、時、この月、深、奉、て、わ、た、ど、他、老、十、年、の、勞、功、之、達、て、今、年、製、板、と、す、也



夫のつれづれのあやふ
 さいとあまきふよあつとせ
 うらぐらむあつとせとせ
 工の人あつとせとせ
 まるま一上、藤、の、ま
 るまをちりあつとせとせ
 ちりあつとせとせとせ
 るの、を、あつとせとせ
 るの、を、あつとせとせ

應賀作芳虎画



一猛苑芳用画



重宝記

○やけどとまゐるとたの早く火鉢の

火の中へ灰のかきまじり

湯の中へ入れれば火つきたし

あふよりまがら

大妙業あり

○病犬み食れ

たう葉のさるべあれども

取分によろけおやく香仁成る

まじりつばー斑口へたうのあそその上へ食を

まをよし是おのころあたりたくりてあうばれば即坐の



Handwritten text in vertical columns, likely a translation or commentary on the adjacent illustration. The text is dense and covers most of the page area.



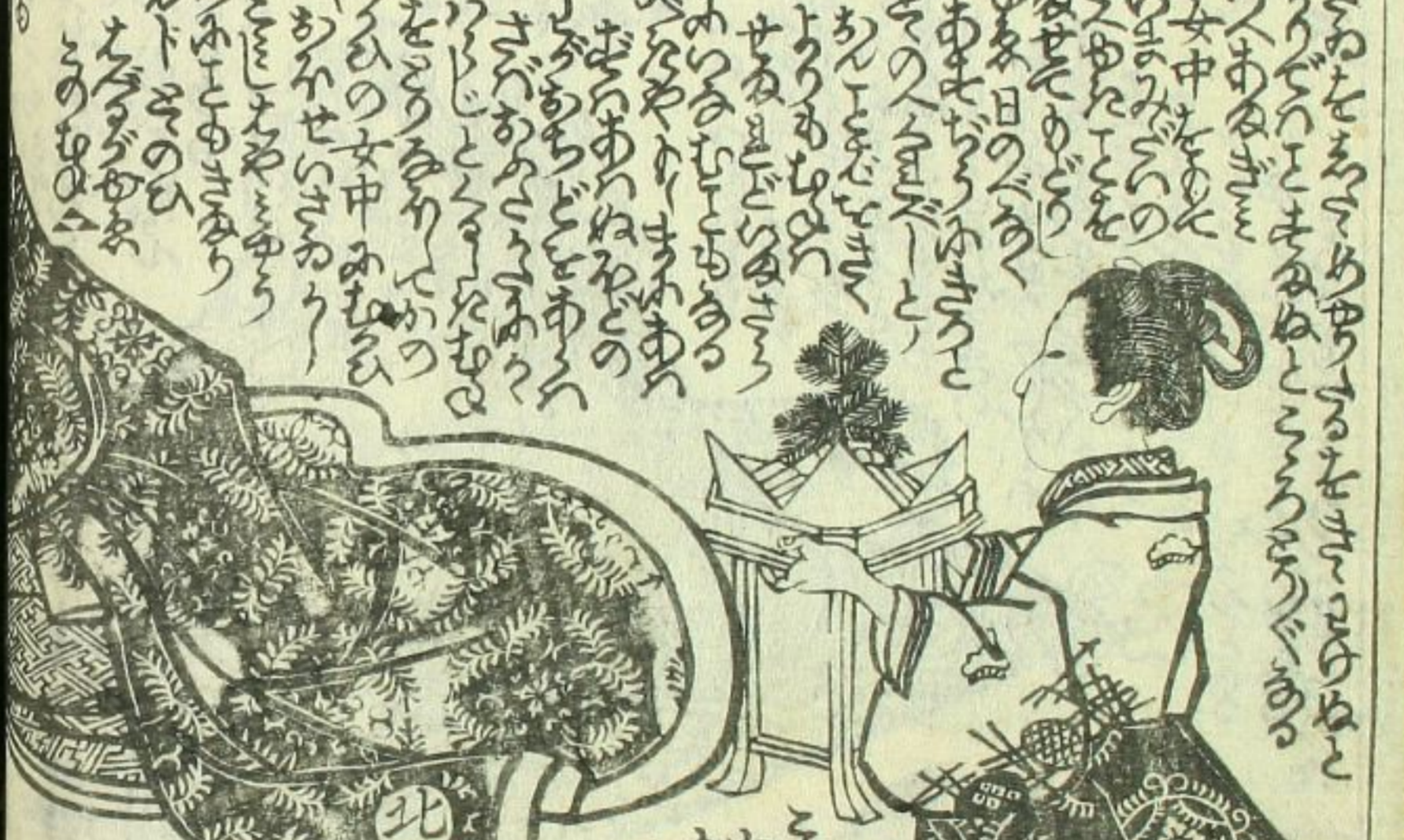
横山加川

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page, below the illustration.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the right page.



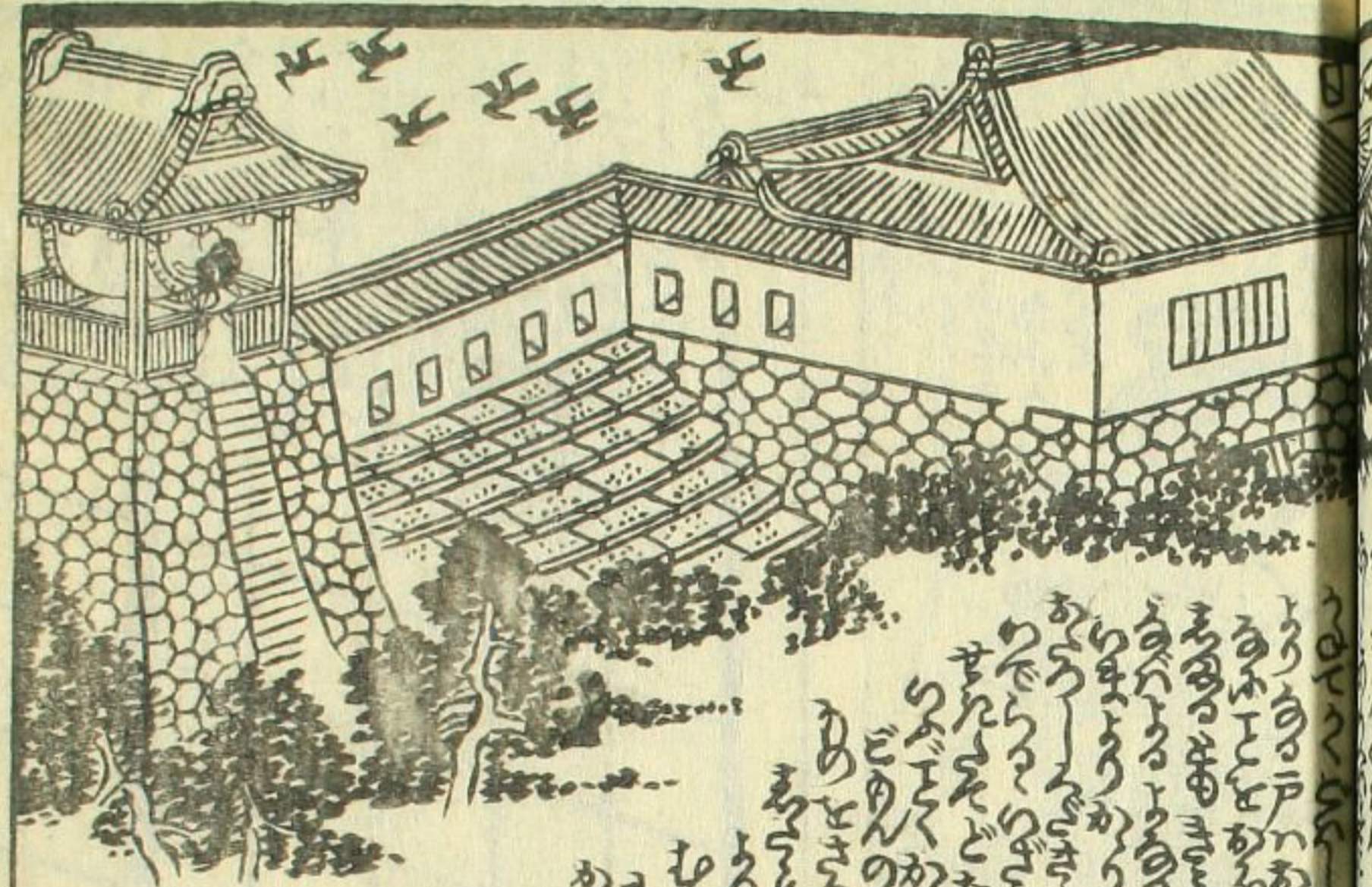
Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the right page, below the illustration.

Vertical text on the left margin of the left page.

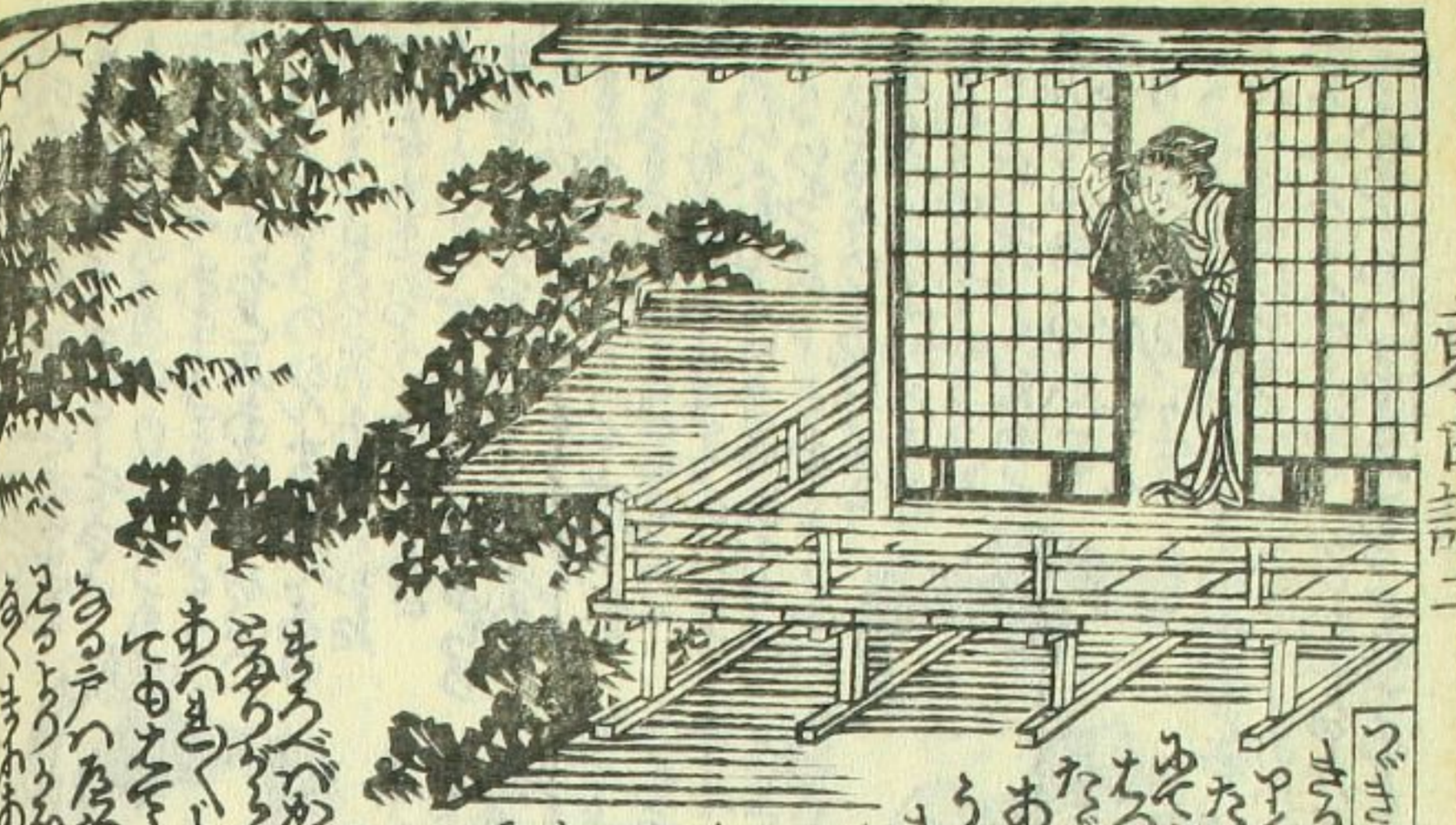
Vertical text on the left margin of the left page.

Vertical text on the right margin of the right page.

Vertical text on the right margin of the right page.



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a diary entry or narrative, located below the building illustration.



Handwritten Japanese text in vertical columns, including a large illustration of a woman in a kimono sitting and reading or writing, located below the veranda illustration.

つぎさのせん
千賀ち九郎
みあいの月の
るまどかへ
あまき
うらあま
うの



あまき
うらあま
うの



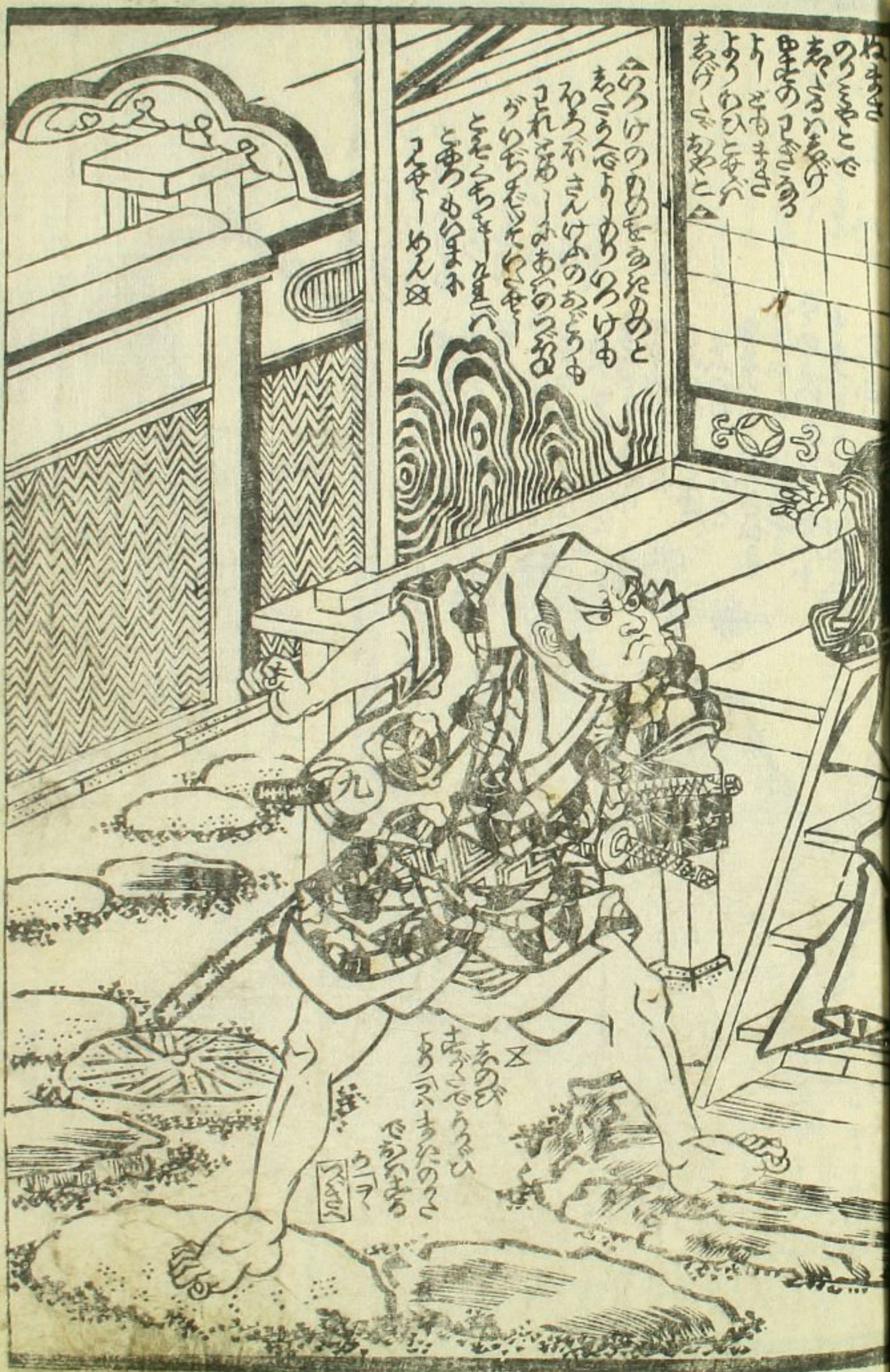
成

あまき
うらあま
うの

あまき
うらあま
うの

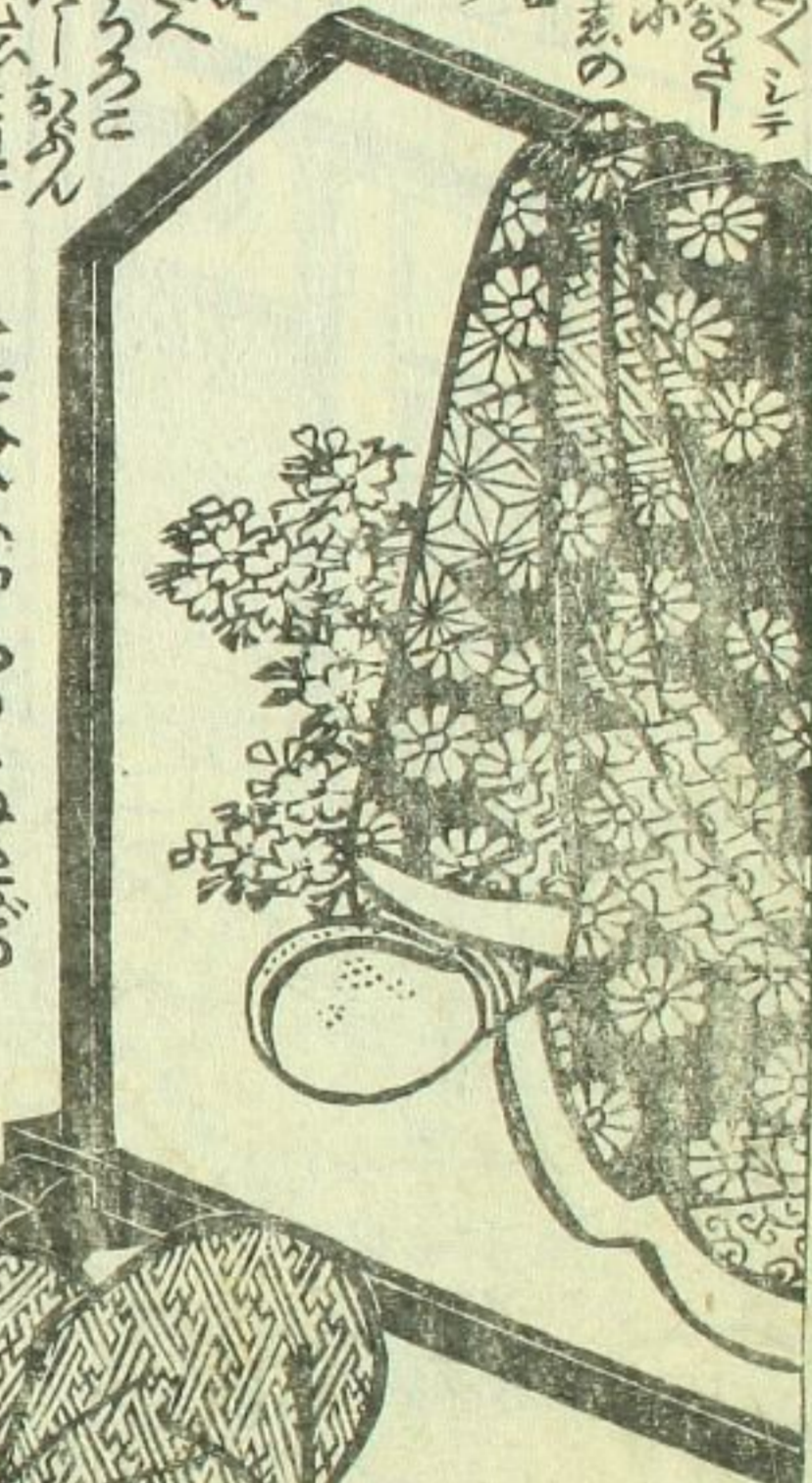
あまき
うらあま
うの

あまき
うらあま
うの



あまき
うらあま
うの

ついでに... 大金花... 女... 天の...



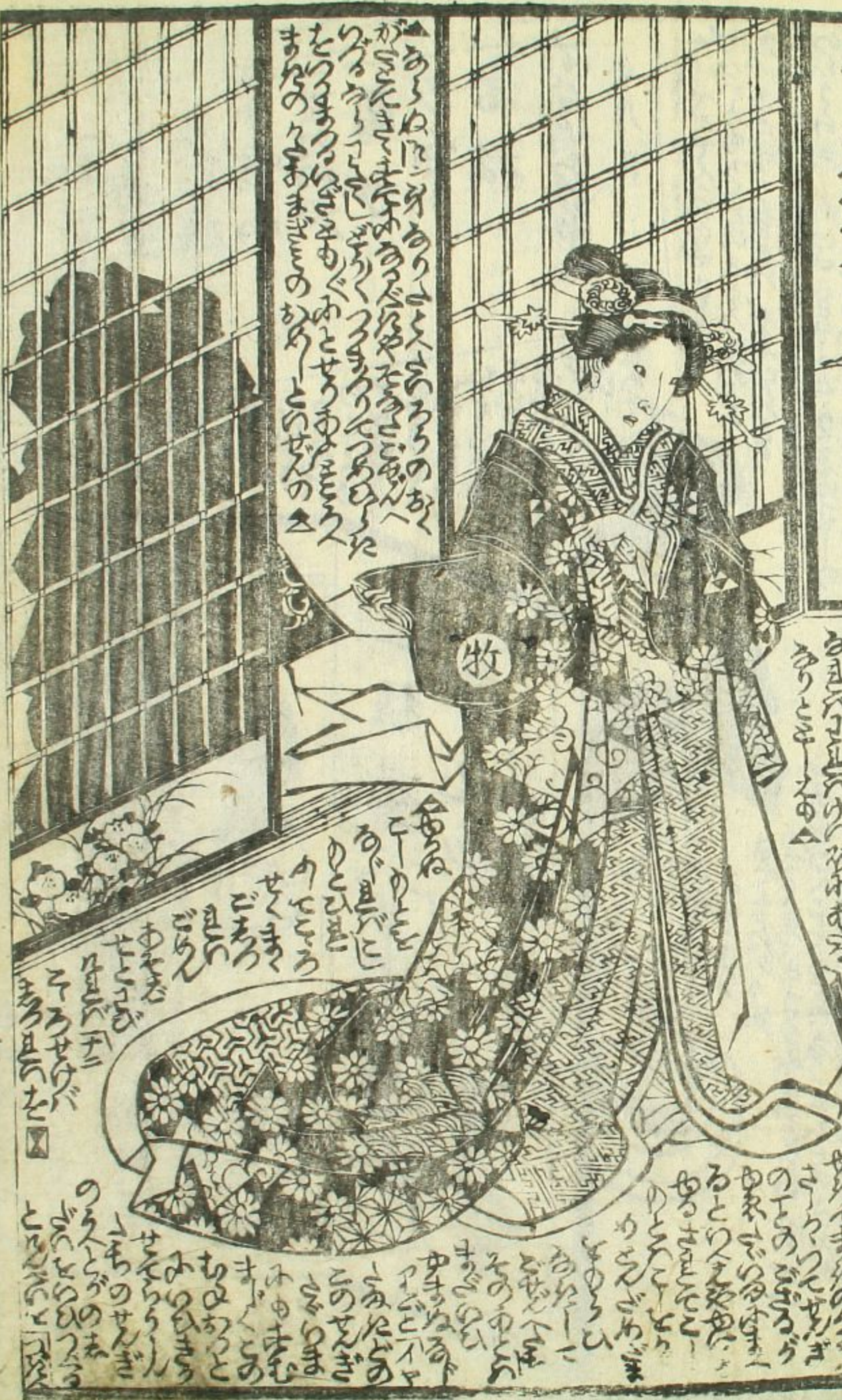
この... 女... 天の...

この... 女... 天の...

この... 女... 天の...



この... 女... 天の...



あはれぬに身ありて人あらうのあ
 がんきまよてあはれぬをうん
 りるがうしにんじりてあはれぬ
 たつあはれぬをいふとさうあはれぬ
 まはれぬをいふとさうあはれぬ

あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに

あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに



あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに



あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに

あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに
 あはれぬに

甲寅春錦橋堂新板

御藥 固齋散 大包代百銅 小包代廿銅
 功一血の毒を 一うたて 一うと血
 能。用ひ各うのうあふらうくおまひい

清淨 精製 **白妙** 一包代 廿二銅
 ままーづ入且用ぬれはら
 白くあるふわたの

寐小便の天奇藥 石代
 小児男女も一色を治る良方

塵塚物語 三編 山東菴京山作
 揃一陽齋豊國画

葛葉丸重錦 五編 万亭應賀作
 揃一陽齋豊國画

英雄五大力 五編 万亭應賀作
 揃一猛齋芳虎画

雛鶴笹湯壽 紅摺 山東菴京山作
 大本 一冊 一陽齋豊國画

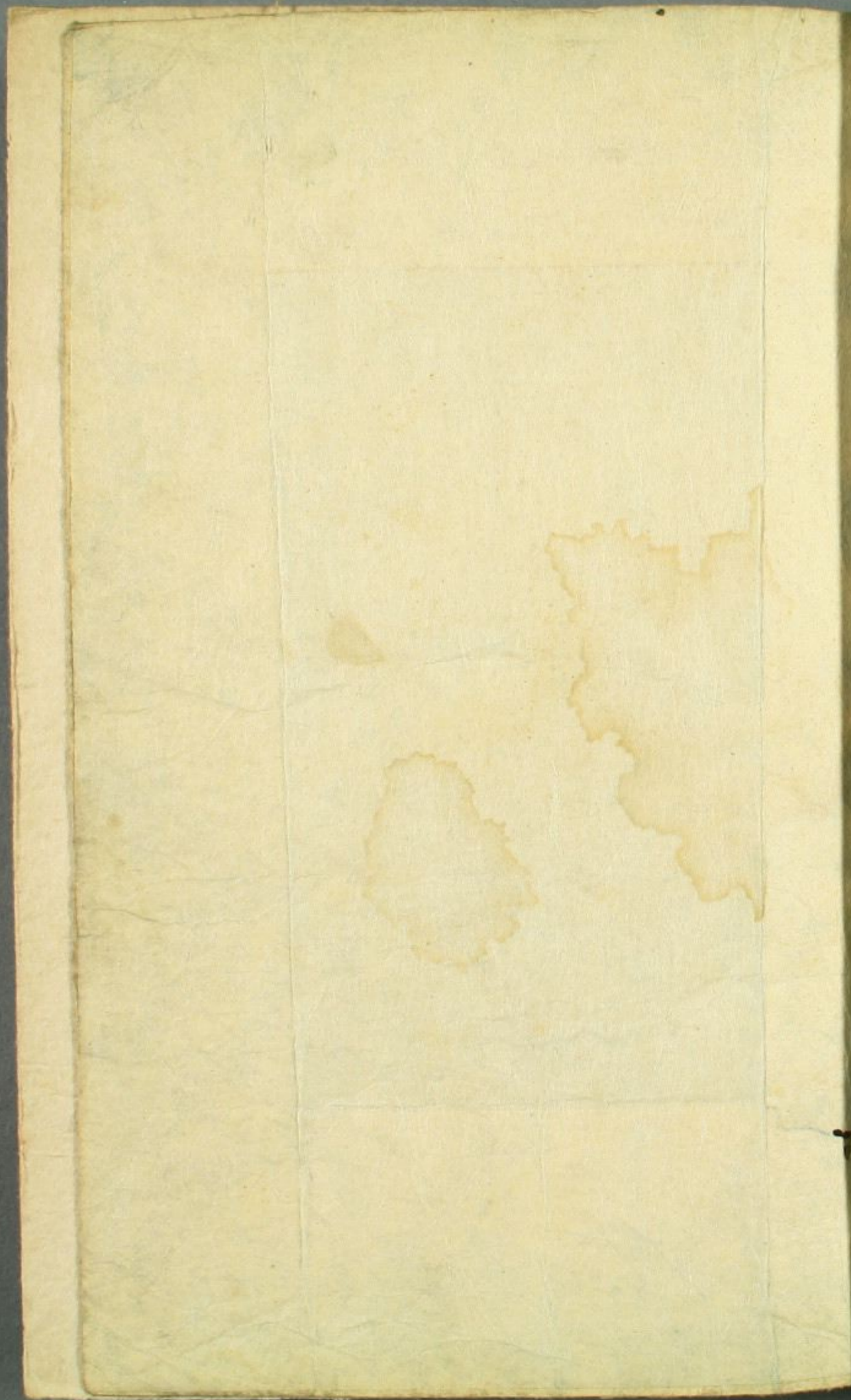
菴南全集箱 中本形 山東菴
 全冊 京山 作

庄 地本 江戸中橋廣小路
 錦繪問屋 山田屋庄兵衛

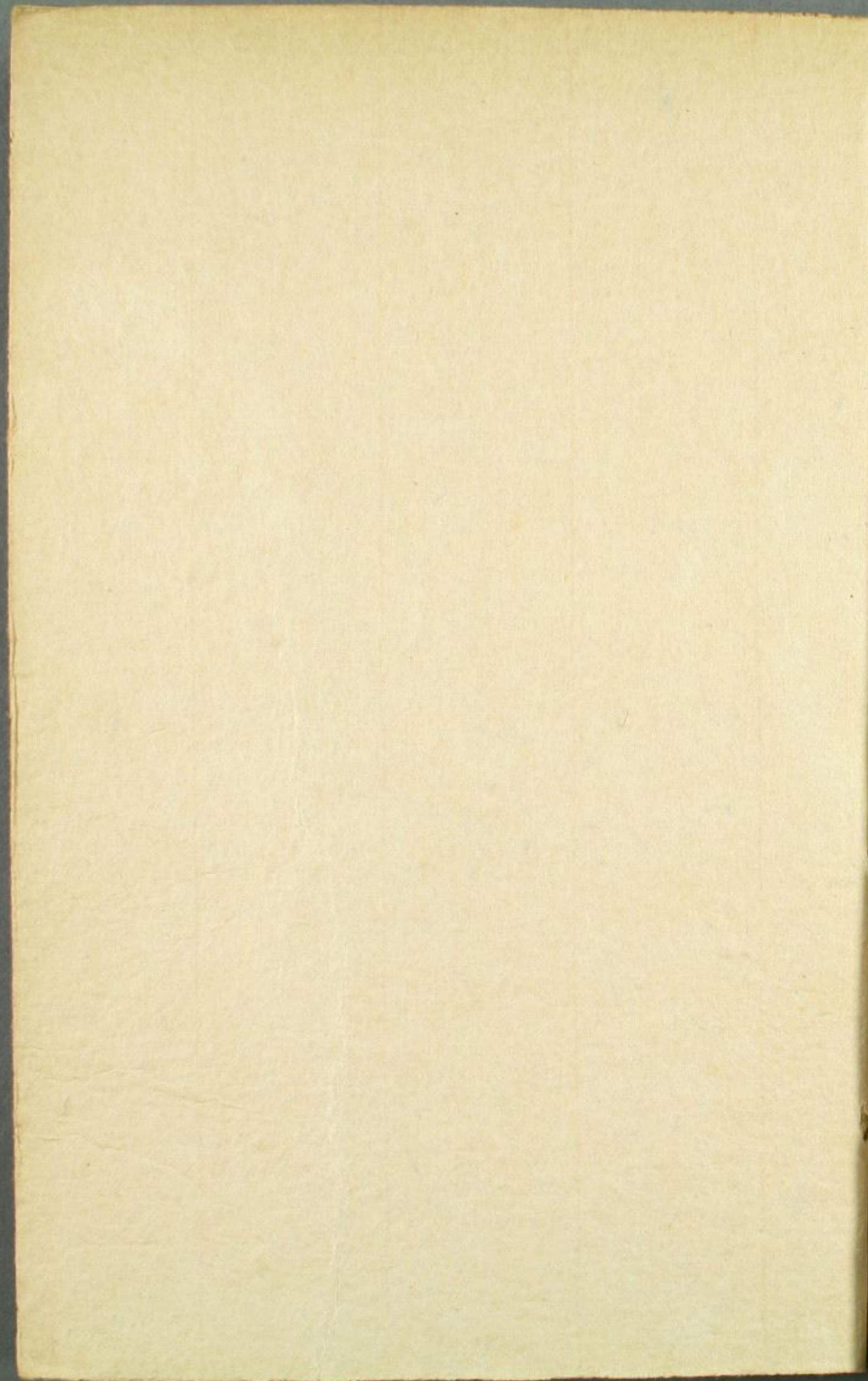
狂言番組
 二番叟
 三不接
 小倉山
 せだの戸
 一角力
 一汐々
 一老松
 右通お勢
 五月日

一猛齋
 芳虎画

御可舉
 公東日
 記三編
 近刻



東日
三十一



10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

早稲田大学図書館

011688991767